

1 肺に発生したコクシジオイデス症の1例

2
3 ○板倉朋恵(千葉大学医学部附属病院 病理部) 堀
4 内文男(千葉大学医学部附属病院 病理部) 渋谷潔
5 (千葉大学大学院医学研究院 胸部外科学) 大出貴
6 士(千葉大学大学院医学研究院 診断病理学) 廣島
7 健三(千葉大学大学院医学研究院 診断病理学) 亀
8 井克彦(千葉大学真菌医学研究センター 真菌感染
9 分野) 中谷行雄(千葉大学大学院医学研究院 診断
10 病理学)

11
12 【はじめに】原発性肺コクシジオイデス症は
13 *Coccidioides immitis* (以下 *C. immitis*) の分生子
14 を吸入する事により肺に感染を起こす。*C. immitis*
15 はカリフォルニアやアリゾナなど米国西南部やメキ
16 シコ西部などの限られた半乾燥地帯の土壤中に生息
17 する。国内には存在せず、輸入真菌症として法定伝
18 染病4類感染症に指定されている。

19 【症例】30歳、男性。2007年検診にて胸部異常陰影
20 を指摘され、2008年当院感染症治療部を紹介受診。
21 自覚症状認めず。2003年より4年間米国留学、アリ
22 ゾナ在住。滞在中は国内全土をまわりメキシコにも
23 入った。胸部CT、X線にて右肺S6に14mmの腫瘤影
24 を認めた。穿刺吸引細胞診および生検組織診施行す
25 るも確定診断には至らず、肺部分切除術を施行。

26 【細胞所見】多量の壊死の中、埋もれるように大小
27 直径数 μm 程度の大きさの内生胞子と数十 μm 程度
28 の球状体を多数認めた。PAS反応およびGrocott染色
29 にて陽性を示す菌体を確認した。

30 【組織所見】結節性病変内部はほぼ全体が乾酪壊死
31 を呈し、周囲には類上皮細胞、多核巨細胞の出現を
32 伴う肉芽腫の形成を認めた。内生胞子を内蔵した球
33 状体や、放出された内生胞子および破裂したものな
34 ど各種発育段階の球状体を多数認めた。

35 【結語】*C. immitis*の発育形態、細胞像などを踏ま
36 えた上で、海外渡航歴、臨床情報などを念頭におい
37 て鏡検することが重要と考えられた。

38
39 043-222-7171 (内線 6401)